

令和6年度 府立福知山高等学校三和分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<スクール・ミッション> 農業科・家政科を設置する昼間定時制課程の高校として、個に応じた学びと協働学習の場を提供することにより、基礎的な学力と生きる力を身に付け、社会に主体的に参画できる心豊かな人材を育成する。 <スクール・ポリシー> ◎育成を目指す資質能力に関する方針 「個を活かし、公に生きる人間」の育成 この推進のため特に、 ・5K力(「感じる力」「考える力」「行動する力」「向上する力」「関わる力」) ・いつの時代においても生き抜くことができる力(汎用的能力)を身に付け、地域社会の一員として、他者と協働して貢献できる力の育成に努める。 ◎教育課程の編成及び実施に関する方針 ・地域と連携した活動を通して地域社会を理解し、社会に貢献できる力を育成する。 ・農業又は家庭の専門教育の一層の充実を図り、「汎用的能力」を育成する。 ・個に応じた丁寧な指導で、基礎的な学力と生きる力の定着を図る。 ◎入学者の受入れに関する方針 ・学習や学校行事等、学校生活に意欲的に取り組もうとする生徒 ・農業又は家庭に関する分野に関心・興味を持ち、意欲的に学ぼうとする生徒 ・本校で学んだことをもとに、進路実現に向け最後まで取り組める生徒 ・自他を尊重し、多様性を認め、他者と協働して物事に取り組める生徒	(成果) 1 生徒自身の学習に対する意識の向上等により、全体的に落ち着いた中で教育活動を行うことができた。 2 新学習指導要領実施2年目となり、観点別評価やICTの研究を進めることができた。 3 進路面では、生徒・保護者との相談を継続的に行い、関係機関・就学相談員との連携を密にし、丁寧に進めることができた。 4 コロナが第5類に移行され、行事等をコロナ前に近い形で実施すると共に、工夫を加えることで、より充実した活動になった。 5 様々な課題がある生徒の実態把握や指導の手立てを共有化し、個別の指導計画を基に全教職員でPDCAサイクルを回すことにより、個々の生徒に応じた指導ができた。 6 「三和分校ループリック」を行事や日々の活動の中で意識させるとともに、「コグトレ(学習面・社会面)」等を効果的に取り入れることにより、成果が出てきた。 7 生産した野菜・苗、MVP(食品加工室)で製造した加工品を校内・外での販売や地域との連携を通して、学科の特徴を発信することができた。 8 各種コンテスト等に積極的に応募し、その結果から自信を高め、さらに挑戦する意欲が高まった。 (課題) 1 卒業後を見据え、4年間でつきたい力の育成を目指し、教育活動全体についての教育効果を検証し、改善・整理等を行う。 2 特別支援教育の理解と研究をより一層推進する必要がある。 3 生徒同士の理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに取り組む。 4 MVP等の教育環境を活用し、農業科と家政科の連携をより一層強め、目標を明確にしなが、取組を推進する。 5 ICTの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領の理念に基づいた教育活動を一層進める。	1 基礎学力の定着 (1) 「わかる授業」を実践し、基礎学力を定着させる。 (2) 個に応じた指導により学習に対して努力を継続させ、やればできるという成功体験を通して、自信をつけさせる。 (3) 規律ある授業環境の定着を目指す。 2 原級留置・中途退学の防止 (1) 生徒の実態把握に努め、個に応じた配慮・指導を行う。 (2) 生徒個々に目標を立てさせ、学ぶ意欲をもたせる。 (3) 基本的生活習慣の確立を促す。 3 社会人になるための自覚を促す指導 (1) 人権感覚を磨き、思いやりをもって他者と関わるができるようにする。 (2) 販売実習や地域連携等の体験を通して、他者と協力することの重要性を認識させ、地域や社会の一員であることを自覚させる。 4 生徒支援の研究と充実 (1) 将来社会に出ることを見据え、認知機能を高める取組を行うとともに、スモールステップで課題を乗り越えていけるように、個に応じた指導や支援を充実させる。 (2) 生徒個々の指導計画を作成し、支援を要する生徒の指導方法や授業の方法を研究し実践する。 5 希望進路の実現 (1) 保護者、各種関係機関と連携を深め、個に応じた進路選択・進路実現を目指す。 (2) 低学年からキャリア教育を充実させ、卒業後の進路を早い段階から意識させる。 6 OJTの推進 (1) 教職員が取組の成果や課題を共有し、改善に向けた方策を積極的に議論できる雰囲気を作り、チーム力を高める。 (2) 農業科と家政科のコラボなど、学科・教科・分掌等を越えた横断的な取組を積極的に行う。 7 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり (1) 危機意識や防災意識を高め、日々の点検に努める。 (2) 学校防災マニュアルにより生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立する。 8 家庭・地域・関係機関との連携の強化 (1) 丁寧に家庭連絡・家庭訪問を行い、家庭との連携を密にし信頼関係を構築する。 (2) 関係機関との連携・協働により、教育内容の充実を図る。 9 府立高校特色化事業(京都フロンティア校) (1) 農業科と家政科との連携を一層強化し、活性化を図る。 (2) 発表する機会を多く設け、役割を付与することにより、主体的に考え、表現し、行動する力を磨く。

評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価		成 果 と 課 題							
組織・運営	・教育目標達成に向けた取組体制の確立	・学校経営計画に基づき、各分掌・学科・教科それぞれが教育目標達成に向け、一体となって取組を進められるよう環境や条件を整備する。	B	B	・多くの分掌において計画の目標が達成できた。 ・教職員の業務の工夫改善には一層取り組む必要がある。							
		・OJTを推進し、教職員間の密接な連携のもと組織的・協働的に業務遂行が行えるよう配慮する。	B									
	・生徒、保護者、地域のニーズに応える、開かれた学校づくりの推進	・生徒・保護者へのきめ細やかな対応により、個の特性に応じた丁寧な指導を行う。	A	A	・個々の生徒の特性に応じた丁寧な指導と教職員間での課題の共通理解により、生徒・保護者との信頼関係の構築ができた。「みわ分校だより」の配布を拡大し、新聞やテレビにも多く取り上げられ、「きょうと府民だより」3月号にも生徒の活動が取り上げられた。							
		・体験セミナー・学校説明会や学校行事、PTA総会、各学科の取組やホームページを通して、昼間定時制や学科の特色を理解してもらう。 〔体験セミナーにおける参加者の満足度〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>89～80%</td><td>79～65%</td><td>64%以下</td></tr></table>	A			B	C	D	90%以上	89～80%	79～65%	64%以下
	A	B	C			D						
90%以上	89～80%	79～65%	64%以下									
・生徒募集を意識した広報活動の活性化	・新聞等の掲載回数が増えるように外部機関に積極的に働きかけたり、各中学校等、関係機関に学校案内や広報資料を配布する等、分校の存在や教育活動の中3生に知ってもらう機会を増やす。	A										
	・府立学校特色化推進事業（京都フロンティア校）に関する取組の継続発展	・各学科の取組を教職員全体での共通理解のもと支援体制を深める。 ・両学科の連携をさらに緊密なものにするとともに学校全体で地域連携・地域貢献を進める。	B	B	・学科の特色を生かし、地域のイベント参加や地域との連携を積極的に進めた。							
事務部	・円滑で的確な窓口業務と分校全体を見渡した、教育環境の整備	・親切、丁寧な対応を心がけるとともに、援護制度等担任との連携を密にし、的確な事務処理を進める。	B	B	・保護者や生徒に対し、丁寧な対応ができた。 ・分掌や教科と連携し適正かつ効果的な予算執行を行った。							
		・予算の有効活用と適正な会計事務を行う。	B									
	・危険箇所の早期発見、早期改修と校内教育環境の安全衛生管理	・安全点検を定例化し危険箇所の早期発見と迅速な対応に努める。	B	B	・分掌、教科と常に連携し、環境整備と危険箇所の発見 ・改修・危険防止措置が実施できた。							
・ゴミの分別回収と搬出、溝の消毒等校内の清潔、整理整頓に努める。		A										
教務部 （図書・視聴覚）	・授業規律の確保と、基礎学力の定着	・年度当初に授業を受ける5つのルールを示し、生徒指導部・学年部・学習支援担当と連携して授業規律の確保に取り組む。	B	A	・教科担当者会議では個々の生徒の得意不得意を共有し、適した指導方法について検討することができた。 ・ICT活用についての校内研修を行い、授業等での活用について意識を高めることができた。							
		・教科担当者会議等で生徒についての共通理解を深め、丁寧でわかりやすい授業づくりを推進する。	A									
		・校内研修でタブレット端末の効果的な使い方を共有するなど、生徒の個に応じた学びについて教員の意識を高める。	A									
	・トライの充実	・取組3年目となるトライにおいて、生徒の話し合う力、リーダー性を必要とする内容にすることで、これらの力の育成を目指す。			・定期的にリーダー会を開き、意識付けを行った。							

		〔トライのアンケートで、話し合う力が身に付いたと答えた生徒割合〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>8割以上 (32 人 以 上)</td><td>6 割以上 (24 人以上)</td><td>4 割以上 (16 人以上)</td><td>4 割未満 (16 人未満)</td></tr></table>	A	B	C	D	8割以上 (32 人 以 上)	6 割以上 (24 人以上)	4 割以上 (16 人以上)	4 割未満 (16 人未満)	A	A	・年初に、話し合いに重点を置いて進めていくことを確認することができた。 ・生徒アンケートでは、34 人の生徒が話し合う力がついたと答えている。しかし、生徒の意識と実態には大きな開きがあり、今後も継続して取り組む必要がある。
A	B	C	D										
8割以上 (32 人 以 上)	6 割以上 (24 人以上)	4 割以上 (16 人以上)	4 割未満 (16 人未満)										
	・適切な観点別評価の研究	・観点別評価について、三和分校の生徒に適した評価の在り方を、専門教科と一般教科で連携し、研究していく。	B	B	・校内研修を 2 回実施し、学校全体で指導と評価の一体化への意識を高めることができた。しかし、非常勤講師の先生方への浸透については、まだまだ不十分である。								
	・校務システムのスムーズな運用	・授業時数の確保、指導要録・出席簿等の表簿の適正な管理を行うことにより、教育計画の適正な実施を図る。 ・校務システムに係る O J T を行う。	B	B	・生徒の欠席記録等、日々のこまめなチェックにより、大きな問題は起きなかった。 ・校務システムの OJT を進めることができなかった。								
	・図書室の有効活用	・蔵書の充実を図り、昼休みの開館を続けることにより、より生徒に身近な存在となるようにする。また、図書委員会の活動を活性化させる。	A	A	・イベントを実施することで、生徒が本を読む機会、また、図書委員の活動機会を増やすことができた。								
生徒指導部	・自己肯定感の育成及び規律ある生活習慣の確立に向けて、三和分校ルーブリックを有効活用した指導を行う	・各分掌と協力し、全ての生徒が落ち着いて、前向きに、安心して普段の学校生活や特別活動を送れる安全で規律ある環境作りを行う。	B	B	・問題行動等の生徒指導事案について、その都度迅速に対応することができた。 ・HR 委員や各委員会が積極的にルーブリックを活用した活動を行うことができた。しかし、全員の自己肯定感が育まれているわけではない。 ・様々な活動の中で学年を超えた生徒同士の良好な関係を構築しつつあると感じる。言葉づかいや身だしなみについて日常的に注意喚起を行えた。								
		・特別活動や委員会、部活動など他者との関わる活動の中で自分の強みを見つけ、成功体験を通して自己肯定感を育む教育を行う。	B										
		・4 年次の進路実現を意識し、社会性やコミュニケーション能力育成のため、挨拶や言葉遣い、身だしなみを日常的に指導する。	A										
	・納得と説得を基本とする丁寧な生徒指導を行う	・生徒個々の事情や特性、家庭の状況に配慮し、個に応じた適切で丁寧な指導を行う。	A	A	・問題事象において迅速な対応、情報収集と丁寧な個別指導、家庭との連携を行うこと								

		・教職員全員で指導方針を共有し、本人はもちろん家庭にも理解と納得のいくねばり強い指導を行う。	B		・生徒の問題事象や問題行動について、職員会議や朝礼で全教職員に情報共ができた。								
	・生徒会活動の活性化と自主性の確立を目指す	・体育祭や文化祭などの生徒会活動や委員会活動、クラスの取り組み、放課後の部活動を活性化させ、生徒の自主性や社会性を育てる。	A	A	・各委員会が積極的に活動することができた。体育祭や文化祭でも、生徒が積極的に活動でき充実したものになった。								
進路指導部	・希望進路の実現	・4年生との相談活動等の充実を図るとともに、家庭及び関係機関・就職支援教員等との連携を図る。 ・入試・就職試験等に向けて丁寧な指導を行い、生徒全員の希望進路の実現を目指す。 ・希望進路の決定・実現に向け低学年時からの指導を推進する。 [2学期個別面談時の進路指導件数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>48件以上</td><td>47～35件</td><td>34～22件</td><td>21件未満</td></tr></table>	A	B	C	D	48件以上	47～35件	34～22件	21件未満	B	B	・4年生については、生徒及び保護者との相談を継続的にを行い、関係機関・就職支援教員との連携を密にし、個に応じた指導を丁寧に進めることができた。 ・1～3年生の個別面談を実施し、卒業後の進路について指導した。 ・4年生の進学希望者に出願書類等の指導を実施した。 ・大学への進学希望者がいなかったため模擬試験の実施はできなかった。
			A	B	C	D							
			48件以上	47～35件	34～22件	21件未満							
	A												
	C												
・援護制度の紹介と活用	・個々の生徒の進路希望や経済的な課題等をより早期から丁寧に把握し、進路にかかわる費用や援護制度に関する情報を適切に提供する。	A	A	・4年生には4月の四者面談時に支援制度についての情報提供を行った。その他の奨学金についても、人権教育部と連携して取組を進めた。									
・教員の進路指導力の向上	・就職指導等に関する教職員研修を実施する。	C	C	・研修を実施することができず、職員会議での情報共有なにとどまった。									
保健部	・感染予防対策の推進	・感染の動向を踏まえた感染予防対策への指導を推進し、意識の向上と定着を図る。 ・CO₂モニターを活用した教室内の換気の取組など、保健・環境美化委員会とも連携した活動を進める。	A	A	・全ての教室にCO₂モニターが設置されたことによりほとんどの生徒や教職員が換気に対して意識できた。 ・保健環境美化委員会の活動を通して、手洗いや換気等の感染症対策を呼び掛けることができた。								
	・健康教育の推進	・健康診断における事後措置の充実を図り、必要に応じて個別指導を行う等、学年部と協力して受診率の向上を目指す。 ・身体の清潔や歯の健康に係わる保健指導の充実を図る。 ・ほけんだよりを発行し、心身の健康について生徒の興味関心に繋がるよう内容等を工夫する。 [ほけんだよりの発行回数]	A	A	・担任と連携し、受診率向上に努めることができた。 ・外部講師や委員会活動を活用した清潔指導を行った。 ・ほけんだよりを月1回発行								

		<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>6回以上</td><td>5回</td><td>4回</td><td>3回以下</td></tr></table>	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下			し、健康に関する保健指導や情報提供ができた。
A	B	C	D										
6回以上	5回	4回	3回以下										
	・教育相談活動の推進	・教職員間の“報・連・相”及び専門機関等との連携により、生徒・保護者へのタイムリーな対応に努める。 ・生徒・保護者理解についての教職員研修を実施する。	A	A	・夏季と冬季の休業中、SCによる職員研修会を実施し、自分自身の健康や生徒理解を深める機会となった。								
	・環境美化活動の充実	・学習環境が清潔に整然と保たれるよう保健・環境美化委員会を中心に呼びかけを行い、学年部と協力して福知山市のゴミ分別を徹底する。	B	B	・保健環境美化委員会が中心となって、ごみ分別のチェックを行った。 ・当番を忘れていた生徒やごみの分別が徹底できていない生徒に対し、こまめな指導が必要だと感じた。								
	・安全点検の強化	・生徒と教職員による校内の安全点検を実施し、学習環境整備の見える化を進める。 [安全点検の実施回数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3回以上</td><td>2回</td><td>1回</td><td>0回</td></tr></table>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回	A	A	・学期に1回実施をすることができた。 ・把握が不十分な箇所もあったため、対策を検討したい。
A	B	C	D										
3回以上	2回	1回	0回										
人権教育部	・人権意識の高揚と、自他を尊重できる集団づくり	・担任と連携を密にし、日常的に生徒の動きに目を配り、問題の早期解決に努める。	B	B	・今年度は、各学年で人権HRを実施することができた。 ・内容をさらに検討し、良いものにしたい。								
		・人権アンケートの結果を生かし、講演等を計画する。また、いじめやからかいなどの問題について、生徒指導部、学年部と連携して対応する。	A										
	・きめ細かな、就・修学援助	・各種奨学金等について、保護者・担任・事務・各関係機関と連携を図り、速やかに案内や指導、申請をする。	B	B	・担任を通じて、速やかに各種奨学金の案内ができた。								
	・教職員の人権意識の向上	・教職員対象の人権講演会を実施し、様々な人権問題についての理解を図る。	A	A	・1学期にヤングケアラー、2学期に同和問題について研修を実施した。								
学習・特別支援	・生徒の実態把握と支援体制の整備	・担任、教科担当者との連携を密にし、面談の機会を利用するなどして生徒の実態把握に努め、必要な生徒への具体的な支援目標と方法を検討する。	B	B	・授業中の状況等、担任と教科担当で情報共有し、面談等の機会に保護者に報告し、保護者・生徒と確認のもと、支援目標と方法を検討した。 ・特別支援教育連絡会議を6回行い、教員が情報共有のものと同一方向性で指導を行った。								
		・特別支援教育連絡調整会議を開催し、支援を要する生徒の特性・問題状況の確認及び支援員の配置の調整等を行う。	B										
		・必要に応じてケース会議等につなげていく。 [会議開催回数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>6回</td><td>5回</td><td>4回</td><td>3回以下</td></tr></table>	A	B		C	D	6回	5回	4回	3回以下	A	A
	A	B	C	D									
6回	5回	4回	3回以下										
・個別の指導支援	・個別の指導計画作成にあたり、担任や教科担当者と協力し、アセスメント表の作成・充実を図る。 ・個別の指導計画は、本人・保護者の思いを踏まえて作成し、互いに共通理解が図れるよう連携・相談を進める。	B	A	・個別の指導計画を作成し、実施・検討を繰り返すことによって、情報共有ができ、充									

		・コグトレを活用し、活性化会議とも連携しながら生徒への支援につなげる。	A		実した計画のもと個別に指導ができた。コグトレの実施状況からも生徒の指導・支援につなげることができた。 ・特別支援連絡調整会議を通して個別の指導計画を周知してきたが徹底することができなかった。								
	・指導支援方法等や生徒理解に関する教職員の資質向上	・生徒の得意と苦手を理解した指導を進めるため、早期からの巡回相談の活用を目指す。担任との連携の強化や、家庭・本人へ支援のための情報を提供し、分かりやすい説明の充実を図る。	B	B	・今年度は巡回相談の活用がなかった。担任との連携を強めて、保護者と本人のためになる情報が提供できるよう、わかりやすい説明を検討する。 ・関係機関の研修を教職員で受講し、特別支援教育への知識を深めた。								
		・関係機関、校内の関係分掌と連携し、生徒理解を深めるための教職員研修会を実施し、特別支援教育について正しく学ぶ機会の充実を図る。	B										
	・移行支援の充実	・中高連絡会や個別の移行支援シート等をもとに、必要に応じて本人・保護者との入学前面談を実施し、切れ目のない支援を目指す。 ・進路指導部と連携し、福祉的就労について生徒・保護者への情報提供を進め、関係機関とも連携し、必要に応じて発達検査等を勧めながら、卒業後を見据えた指導の充実を図る。	A	A	・入学前面談を行い、学校生活に必要な支援を行うことができ、移行支援シートをもとに本人・保護者との面談で支援の相談をした。 ・中高連携や関係機関との研修会や面談等で卒業後の自立のための支援の相談ができた。								
			A										
学年部	・確かな人間力の向上 ・生徒が集中できる授業環境の確立	・毎日の挨拶や言葉遣い、読む力、丁寧な字を書く力、時間厳守など社会で必要とされる力を向上する為、日頃の指導を徹底する。	B	B	・学期ごとに目標の設定、振り返りを行い社会で必要な力と自分の成長の確認をした。 ・生徒の整理整頓を促し、学習環境を整えた。								
		・授業を受ける5つのルールの定着を目指し、統一した指導を徹底するとともに教室の整理整頓、美化に努める。	A										
	・希望進路の実現	・4年間を通して、進路への意識を高め進路実現を目指すために、生徒に適切な情報を提供する。また、低学年からの進路指導を推進するために進路指導部と連携して1～3年生の個別進路面談を実施する。 〔1～3年生の進路面談実施率〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>100%</td><td>75%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	100%	75%以上	50%以上	50%未満	A	A	・進路指導部と連携し、学年に応じた進路ガイダンスや個人面談等で早期から進路実現への意識を高めることができた。 ・インターンシップを行い、就労への意欲を高めることができた。
		A	B	C	D								
	100%	75%以上	50%以上	50%未満									
・アルバイト等の就労体験を奨励し、進路指導部、生徒指導部、特別支援教育コーディネーターと連携を図り、個に応じた指導をする。	A												
	・情報の共有	・面談や家庭連絡を丁寧に実施し、個々の生徒の課題や特徴を把握し、日々の指導において、効果的で迅速な対応をする。	A	A	・家庭との連携を密に行い、教員間の情報共有も学年会等で、生徒の状況の変化に迅速に対応し、指導につなげる								
		・日頃から生徒に対する教職員間の情報共有を図り、個々の生徒の共通理解に努める。定期的に学年部会を行い、意思疎通のもと、統一した指導を徹底する。	A										

						ことができた。																							
	・研修旅行の実施	・研修旅行の成功に向け、生徒とともに準備し、安全で効果的な教育活動となるよう実施する。 ・来年度の実施に向け、計画と準備を進めていく	A A	A		・来年度の実施に向け、早くから計画・検討を進めることができた。																							
農業科	・農業に関する専門知識や技術の学習を通して、「生きる力」を身につけていく	・各学年ごとの生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。また、一人1台のiPadの導入による利用方法の研究をさらに進める。 ・実習では体験的で実践的な授業を通して、生徒にチームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力向上を図る。	C C	C		・総合実習での活用ができていない。また担当者により使用頻度の差が大きい。 ・プレゼンテーション能力の育成で弱い面がある。																							
		・農場生産物の販売を積極的に行い、地域から必要とされる農場運営を行う。 ・福知山市や地域の企業と連携した取組を充実させる。 〔連携回数〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>5回以上</td><td>4回</td><td>3回</td><td>2回以下</td></tr></table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	D A	C	・校外への販売ができておらず課題として残っている。 ・地域との連携については、順調に行うことができた。																
	A	B	C	D																									
	5回以上	4回	3回	2回以下																									
・希望進路実現のための資格取得等への取組	・校内行事や府連各種行事に積極的に取り組み、農業クラブ活動の更なる活性化を目指す。 ・農業関連資格取得に意欲的に取り組ませる 〔小型建機受講者数〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>8人以上</td><td>7人</td><td>6人</td><td>2人</td></tr></table> 〔ワープロ検定受検者数〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>8人以上</td><td>7人</td><td>6人</td><td>4人以下</td></tr></table> ・教育長表彰取得率の向上を目指す。 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～50%</td><td>49～20%</td><td>20%未満</td></tr></table> ・新たな資格取得に取り組む。 (食品衛生責任者)	A	B	C	D	8人以上	7人	6人	2人	A	B	C	D	8人以上	7人	6人	4人以下	A	B	C	D	80%以上	79～50%	49～20%	20%未満	C D D	D	D	・校外の行事には、特定の生徒・学年で参加しており活性化にはつながらなかった。 ・資格取得については、取得を呼びかけたが生徒の反応が鈍く、取り組み方に課題が残った。 ・新たな資格取得についても、日程、費用等の面で課題が残り、十分取り組めなかった。
A	B	C	D																										
8人以上	7人	6人	2人																										
A	B	C	D																										
8人以上	7人	6人	4人以下																										
A	B	C	D																										
80%以上	79～50%	49～20%	20%未満																										
・家政科・各教科との連携	・家政科との連携をさらに深め、今まで行ってきたコラボ授業や合同授業の充実を図る。 ・普通科目と連携した取組を行う。 ・加工室の利用について家政科と有効的な活用方法を検討する。	D	D	D	・家政科との連携においては、規格外野菜の提供等は出来たが合同での授業等は出来なかった。																								
家政科	・基礎的専門的な知識・技能の定着	・実習等を通して基礎的・基本的な知識・技術の修得を図り、学習したことを実生活に活用する意識や態度を養う。	B			・身に付けさせたい技術を生徒に明確に示し、定期考査ごとに実技テストを実施した。意欲の向上と技術の習得に効果があった。 ・衛生的に実習するために必要な身支度を整えられないことや、提出期限を守れないなど学習への取り組み方に課題がある生徒への指導に																							
		・生徒1人一台の学習用端末を活用し、生徒の特性に応じた活用を推進する。	B	B																									

				について、引き続き検討する必要がある。 ・各科目での活用法についての交流や、科として取組を推進することが十分にできなかった。								
・社会とつながる教育活動	・販売実習や社会人講師活用事業、地域の保育・福祉施設での実習を通じて、社会とつながる教育活動を展開する。	A	A	・保育園・福祉施設でのふれあい体験や販売実習等により、他者とコミュニケーションをとる経験をすることができた。行事ごとに振り返りを行い、前向きな自己評価も多く見られるが、客観的な視点で自己の課題に気付けるよう指導を続けていきたい。 ・マーマレードコンテストに応募し3作品全て受賞した。学習意欲と自己有用感の向上に効果的であった。 ・会長をリーダーとして、各自が責任感を持って役割を果たす指導ができた。								
	・家庭クラブ活動を組織的・計画的に運営し、生徒の自己有用感を向上させる。	A										
	・各科目の授業と家庭クラブ活動を組み合わせ、教育効果の向上を図る。（資格取得、コンテストへの挑戦）	A										
・農業科との連携	・これまでの取組をさらに進め、学校設定科目「みわまるごと加工実習Ⅰ」、「フードデザイン」等、食品加工室を活用した授業を展開する。 ・農業科との販売実習を計画・実施する。 [校内・校外での販売実習実施回数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>5回以上</td><td>4回</td><td>3回</td><td>2回以下</td></tr></table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A	B	・他校の専門学科とコラボした商品の製造・販売を実現できた。家庭クラブ活動を組み合わせ、食品加工実習を効果的に実施した。 ・販売実習を12回実施した。段取りをする力やコミュニケーション力が向上し、社会とつながる学習の機会となった。 ・食品加工室をスムーズに運用するために、定期的に打ち合わせを実施した。文化祭での事案について共通理解ができるよう、打ち合わせを実施した。衛生管理と品質管理により一層努めなければならない。
	A	B	C	D								
5回以上	4回	3回	2回以下									
・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のできる食品加工室運用に取り組む。（衛生管理と品質管理）		B										

学校関係者 評価委員会 による評価	・様々な新聞で、繰り返し取り上げられたり、ＴＶで放送されたりするなるなど、三和分校の発信力は大変大きなものがある。自分たちの学習の中で身に付けた成果を外部からも評価され、自己肯定感、自己有用感が高まっている。 ・地域とのかかわりを通して、自分たちが認められ自信をつけていく機会をこれからも大切にしていきたいことが重要である。 ・三和分校では生徒の実態を踏まえつつ、学科の特徴を生かした教育活動が実施されている。 ・本校文理科学科「みらい学」、普通科「みらい考」、附属中学校「みらい楽」と同様に、「みらい〇〇」で、本校・三和分校・附属中学校をつないでみてはどうか。
次年度に 向けた改善 の方向性	・多様な生徒の実態把握に努め、引き続き教職員全体に情報を共有し、教育活動を行う。 ・特別支援教育の理解と研究をより一層推進し、一人ひとりの成長に向けた支援をより具体的に行っていく。 ・生徒同士の良さを認め合い、理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに引き続き取り組む。 ・食品加工室等の教育環境の使用について課題を整理し、農業科と家政科の連携と学科の特徴を生かした取組を推進する ・ＩＣＴの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領の理念に基づいた教育活動を一層進める。